

相続に関するアンケート調査 結果報告書

2014/5/27 相続学校なごや

はじめに

ウェルフェア2014(第17回国際福祉健康産業展)に、本年より「終活フェア」が同時開催されました。本学校も早速、出展させていただきました。併せてこの機会に、相続に関するアンケート調査を実施いたしました。集計結果がまとまりましたので、早速報告させていただきます。「円満かつ円滑な相続」が、社会に普及するための一助となれば幸いです。また、ご協力いただきました、多くの皆様に深く感謝いたします。

相続学校なごや 伊藤久夫

調査の概要

調査日:2014年5月23日(金)~25日(日)

調査場所:ウェルフェア2014 と同時開催された終活フェア会場(ポートメッセなごや)

調査対象者・調査方法:ウェルフェア2014・終活フェア来場者にランダムに依頼し、対面聞き取り

調査項目

| | 質問 | 記入方法 | 選択肢 | 備考 |
|--------|---------------------|------|--|-------------|
| 基礎情報 | 性別 | 選択肢 | 男 女 | 単一回答 |
| | 年齢 | 記入 | 歳 | 集計時に10歳毎に整理 |
| 相続関連情報 | 相続について 関心の有無 | 選択肢 | かなりある ある 普通 あまりない 全くない | 単一回答 |
| | 相続について 気になること | 選択肢 | 相続によるもめごと 遺産分割の方法 相続税・贈与税 遺言書 生命保険の加入の仕方 葬儀や墓石に関すること 認知や介護 不動産の活用や処分 家族に秘め事がある その他() | 複数回答可 |
| | 親として子に何を 相続させたいか | 選択肢 | 不動産 現預金 株 なし その他 | 複数回答可 |
| | 子として親から何を 相続したいか | 選択肢 | 不動産 現預金 株 なし その他 | 複数回答可 |
| | ご意見・ご希望 | 記述式 | | |

ウェルフェア2014・終活フェア 相続に関するアンケート調査 結果報告書

回答

| Q1 | | 件数 | 割合 |
|----|-----|-----|-----|
| 性別 | 1：男 | 46 | 43% |
| | 2：女 | 60 | 57% |
| | | 106 | |

| Q2 | | 件数 | 割合 |
|----|-------|-----|-----|
| 年齢 | 1：10代 | 0 | 0% |
| | 2：20代 | 3 | 3% |
| | 3：30代 | 6 | 6% |
| | 4：40代 | 25 | 24% |
| | 5：50代 | 26 | 25% |
| | 6：60代 | 18 | 17% |
| | 7：70代 | 21 | 20% |
| | 8：80代 | 4 | 4% |
| | | 103 | |

| Q3 | | 件数 | 割合 |
|-----------|---------|-----|-----|
| 相続 関心度 | 1：かなりある | 29 | 28% |
| | 2：ある | 39 | 38% |
| | 3：普通 | 29 | 28% |
| | 4：あまりない | 4 | 4% |
| | 5：全くない | 1 | 1% |
| | | 102 | |

| Q4 (複数回答可) | | 件数 | 割合 |
|------------|--------------|-----|-----|
| 相続 関心項目 | 1：相続によるもめごと | 38 | 17% |
| | 2：遺産分割の方法 | 26 | 11% |
| | 3：相続税・贈与税 | 43 | 19% |
| | 4：遺言書 | 31 | 14% |
| | 5：生命保険の加入の仕方 | 7 | 3% |
| | 6：葬儀や墓石に関する事 | 14 | 6% |
| | 7：認知や介護 | 37 | 16% |
| | 8：不動産の活用や処分 | 18 | 8% |
| | 9：家族に秘め事がある | 3 | 1% |
| | 10：その他 () | 12 | 5% |
| | | 229 | |

| Q5 (複数回答可) | | 件数 | 割合 |
|-----------------|-------|-----|-----|
| 親→子 相続させたい財産 | 1：不動産 | 47 | 38% |
| | 2：現預金 | 44 | 35% |
| | 3：株 | 12 | 10% |
| | 4：なし | 12 | 10% |
| | 5：その他 | 10 | 8% |
| | | 125 | |

| Q6 (複数回答可) | | 件数 | 割合 |
|----------------|-------|----|-----|
| 子→親 相続したい財産 | 1：不動産 | 19 | 28% |
| | 2：現預金 | 26 | 38% |
| | 3：株 | 4 | 6% |
| | 4：いない | 15 | 22% |
| | 5：その他 | 5 | 7% |

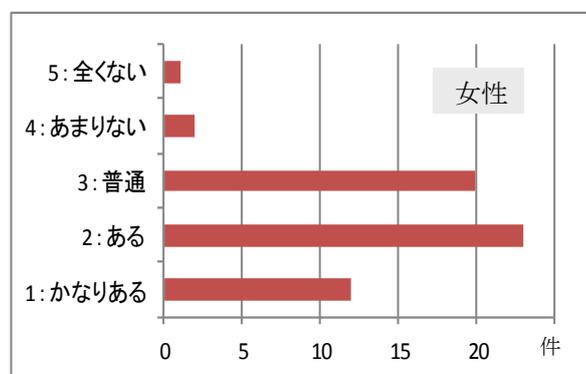
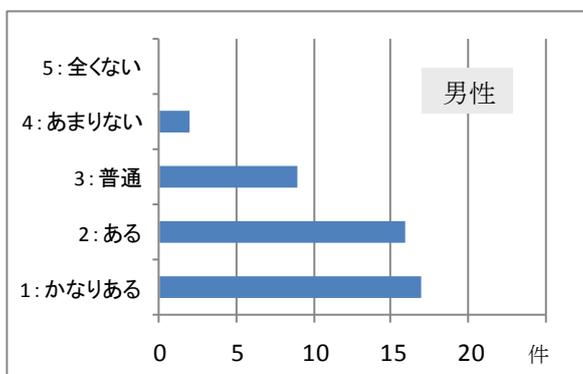
ウェルフェア2014・終活フェア 相続に関するアンケート調査 結果報告書

考察① 男女ともに、相続に関心が高い

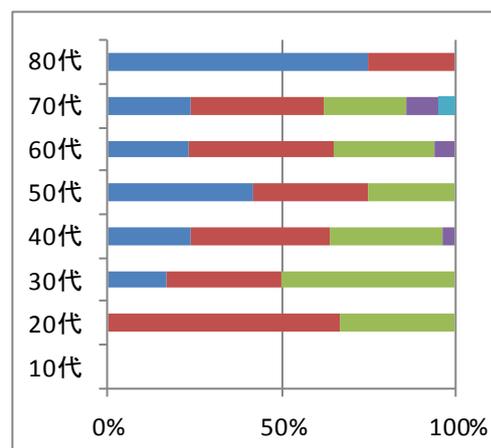
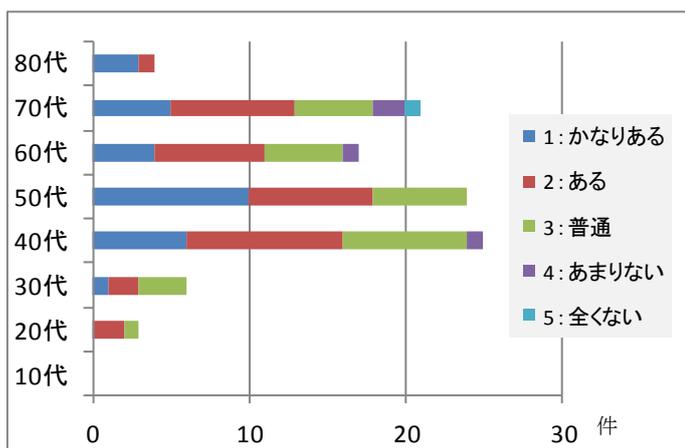
相続への関心は、男女ともに高い結果となった。関心の無い割合は、男女ともに5%程度となり、多くの市民の関心事であることが分かる。今回は終活フェアを訪れた参加者が対象あることを考慮しても、明確な結果を得られた。

また、男性の方が相続への関心が「かなりある」の割合が高く、緊迫感があるよううかがえる。この理由は定かではない。今後の課題とさせていただきます。

| 男性 | | Q3相続関心度 | 女性 | |
|----|-----|---------|----|-----|
| 件数 | 割合 | | 件数 | 割合 |
| 17 | 39% | 1：かなりある | 12 | 21% |
| 16 | 36% | 2：ある | 23 | 40% |
| 9 | 20% | 3：普通 | 20 | 34% |
| 2 | 5% | 4：あまりない | 2 | 3% |
| 0 | 0% | 5：全くない | 1 | 2% |
| 44 | | | 58 | |



考察② 40・50歳代の関心が高い



| | 10代 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70代 | 80代 |
|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 1：かなりある | 0 | 0 | 1 | 6 | 10 | 4 | 5 | 3 |
| 2：ある | 0 | 2 | 2 | 10 | 8 | 7 | 8 | 1 |
| 3：普通 | 0 | 1 | 3 | 8 | 6 | 5 | 5 | 0 |
| 4：あまりない | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 2 | 0 |
| 5：全くない | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 |

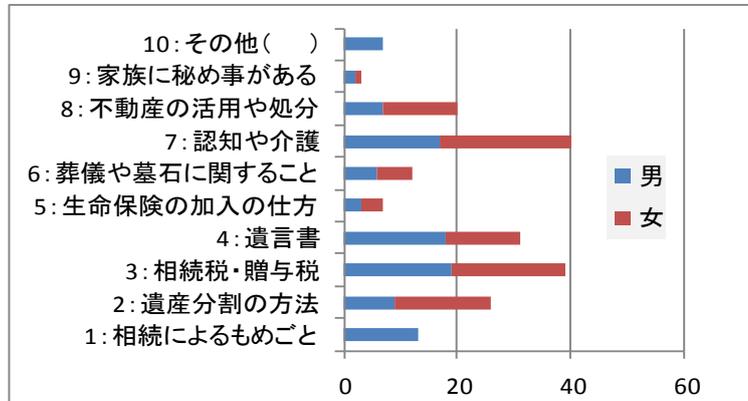
相続への関心は、被相続人として(親:相続させる側の準備)と、相続人として(子:相続する側の準備)がある。

40・50代は相続人として、70・80代は被相続人としての意見と整理すると、相続への関心は、被相続人のみならず、相続人としての関心が高いことをうかがい知ることが出来る。

相続人の関心は、親の財産と親の介護に集約することが出来る。

ウェルフェア2014・終活フェア 相続に関するアンケート調査 結果報告書

考察③ 男性は税金・女性は介護に関心



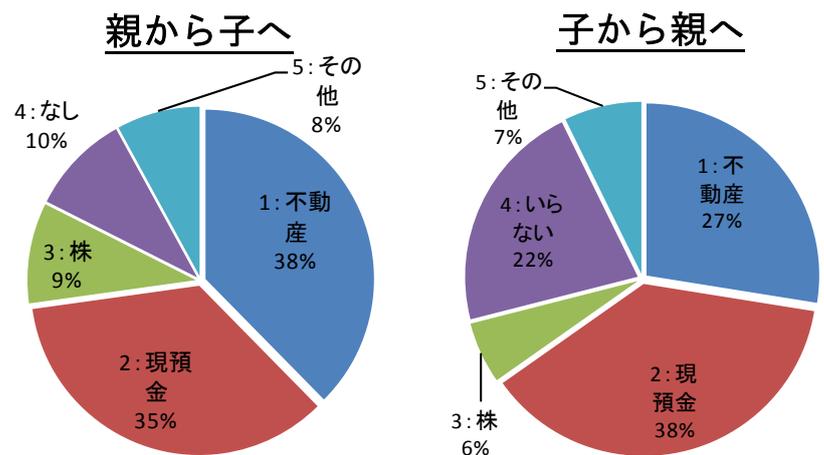
男性は、①税金・②遺言・③介護
女性は、①介護・②税金・③遺産分割の順で関心を寄せている。
介護への関心は自身のみならず、親・配偶者の介護負担を予想していると考えられる。民法では基本的に相続と介護は別件として扱うが、この二つへの関心が高いという事実を見過さず、被相続人への介護の貢献に対し、相続での配慮が検討されることを期待します。
また、男性の方が相続争いへの関心が高い傾向にある。

考察④ 親の気持ちと子の気持ちのギャップ

親が不動産を相続させたいという気持ちと、受け止める子の気持ちにギャップが生まれていることを確認できる。

いずれも、現預金を相続財産としたいという気持ち強いが、国税庁の発表によると(H23)相続財産に占める土地・家屋の不動産の割合は、54%という現実がある。相続財産を事前に分割しやすい財産にシフトしておく必要がある。

子の「いない」という選択の動機は、「親から自立」「現時点では経済的不安がない」「相続争いを敬遠」などが考えられる。



ご意見とまとめ

(いただいたご意見)

・家族がもめず、穏やかに生活できるのが一番。・知識を得ておくことが大切だと実践している。・人とのつながりを相続させる。・成年後見が気になっている。・残された妻のこと・親の財産について・仕事を相続したい。・日本の心やご先祖様を大事にしてほしい。・我が家は息子一人なので大丈夫だと思いますが、息子が先の場合は心配です。

(まとめ)

アンケートの回答数が限られている為、この調査結果をもって全てを語ることはできませんが、市民の問題意識の傾向はつかむことが出来ると思います。ご意見にあるように、相続は財産のみに限るものではないこと。「技」としての相続の基礎知識だけでなく、相続に向かう「心」を多くの皆様にお伝えすることの重要性を「相続学校なごや」設立趣旨と共に、痛感しました。ますます努力して参りますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。